

本年度の 重点目標	社会状況の変化に対応したICT利活用（最終年度） 仲間とともに一人一人が役割をもち活躍するいきいきとした生活の実現		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特色を生かしたICT環境の活用についてまとめる。</li> <li>個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、関係諸機関との連携や指導と評価の一体化を図る。</li> <li>小垣江東小との学校間交流や、居住地校交流を計画的・組織的に推進する。</li> <li>外部専門家との連携・強化を図る。</li> <li>多様なニーズに応じた進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年間の実践を生かしつつ、学校運営方針の項目に沿った枠組みでグループ研究を行い、本校としてのICT環境活用の在り方についてまとめる。</li> <li>個別の教育支援計画を保護者や関係諸機関と連携するためのツールになるように整えていく。また、個別の指導計画に基づき、主体的な活動を促す学習指導を推進する。</li> <li>学校間交流は、放課等を活用した日常的な交流を推進し、共同学習へとつながるように直接的な関わりを重視する。また、居住地校交流をさらに進めていく。</li> <li>教職員の研修や学習会等の成果を、未受講の教職員や地域の小中学校教員が利用する方法について検討する。</li> <li>各部署で進路懇談会を実施し、実態に応じた情報提供と進路に関するニーズの把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ編成に当たっては、「新たな肢体不自由特別支援学校づくり」として、過去3年間取り組んだ研究項目を意識しつつ、本校ならではのICT活用の在り方を職員全体で考えられるようにする。</li> <li>個別の教育支援計画等を含めた支援ファイルが、卒業後の移行支援にとっても活用しやすいものになるように整えていく。生活経験や知識・技能を高めるため、個別の指導計画に基づき、適切に校外学習や体験活動を計画して実施する。</li> <li>交流及び共同学習をはじめ、様々な活動において児童生徒の主体的な取組を促していく。</li> <li>研修内容をオンデマンドで見られるようにするなど、今の時代に即した方法を探っていく。</li> <li>進路希望調査や個別懇談等から進路に関する不安や疑問を把握し、進路懇談会に反映できるようにする。</li> </ul>
信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、医療・福祉関係者、施設・事業所等関係者、地域住民等による学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。</li> <li>地域における特別支援教育のセンター的機能の整備・充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実践の広報の仕方について整理し、ICTを活用しながら時代に合った方法にしていく。</li> <li>回答数が増えるように学校評価の方法を検討し、評価結果を学校運営の改善に生かしていく。</li> <li>要請訪問相談（かりとく相談）、障害乳幼児相談（かもめ相談）などにより、地域の小中学校や障害のある乳幼児の保護者などに積極的な支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校日より等や写真データの扱い方について、公開とセキュリティー強化の両面からよりよい方法を検討していく。</li> <li>学校評価について、紙媒体以外の回答方法を検討し、保護者や教職員から寄せられたより多くの意見を集約して学校運営に反映できるようにする。</li> <li>さまざまな相談に対応する教員の専門性向上を図る。来談者が相談のよさを実感し、継続支援につながる相談の在り方を考えていく。</li> </ul>
一人一人の安全・安心な教育環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアの安全な実施体制の整備に努める。</li> <li>震災に対する関心を高めるとともに、健康・安全教育の推進に努める。</li> <li>学校がどの児童生徒にも楽しい学びの場であるように、人権教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師による医療的ケアを実施し、看護師と教員の連携システムを構築する。教員の研修として、第三号研修を継続実施する。</li> <li>大震災に備え、避難訓練を実施し、課題を見出す。</li> <li>いじめ・不登校の早期発見や支援・対応ができるようにするための体制づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が実施可能なケアの検討や、新転入する医ケア児の情報を集め、早めに受入体制をつくることなどに努める。</li> <li>危機管理マニュアルを、活用しやすい形に変更していく。福祉避難所開設時に、教職員がどのように動けばよいかについて整理し、分かりやすく示す。</li> <li>生活アンケートの結果から児童生徒の思いを共有し、支援に生かす。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人を大切にされた教育の在り方</li> <li>関係機関との連携方法</li> <li>信頼される学校づくりの展開状況</li> <li>医療的ケアの安全・安心なシステムの構築状況</li> <li>学校の危機管理体制</li> </ul>	